

チュチェ思想は自主性と主権の問題解決に完璧な解答を与える思想

ヨーロッパ・チュチェ思想研究学会理事
ルーマニア社会主義党最高評議会議長
ヴァシレ・オルレアヌ

最近、新たな軍備競争で覇権を握るためにアメリカとロシアが恒常的に対立している中、アメリカは多くの主権国家を脅かしています。

民族運動と社会主義運動に関心をもつ政治勢力の数が増え、自主性と社会的平和のための闘争がくり広げており、アジア諸国の中でも、朝鮮と中国が基本的な役割を果たしている力の新たな中心が生まれています。

このような条件で人類にとって、言い換えれば、進歩的勢力にとって、人々の自主性と主権と関連し、自然保護の気候的要因と天然資源の効果的な利用に次第に依存する主要問題の解決で、他の方法が必要です。ここでは人々と国家間の平和的共存のための新たな方法を研究し適用するための普遍的な政策の中心に、ほかならぬ人間と民族を置かなければなりません。

われわれは、現時点で資本主義を宣伝する哲学が、今日も依然として自己の位置を占めているかを知らなければなりません。こうした条件で、人類に関する問題、人間と自然に関する問題、人間相互間の関係問題、自主性と主権に関する問題をはじめ、主要問題を解決する上で、他の哲学、人類社会発展を他の角度で見る新たな哲学が必要であると思います。

わたしは、新しいチュチェ哲学こそは、21世紀初葉に提起される難問題を解決するための哲学であると主張します。

主権と自主性について言うならば、数百万の無辜の人たちに劇的な結果をもたらす武装紛争が激烈に続く中、日増しに極化されている今日の世界で、大国らは覇権と独裁の政治的合理性を強調しています。それゆえ、わが国をはじめ多くの国で、人々に、力を狙う勢力の統制しがたい地位と多民族の拡張について知らせることは実に難しいことです。

背信的で侵略的な通貨政策によって招かれた準一般化された経済危機は、経済環境で重要な変化をもたらし、世界の経済的および軍事的配置をさらに変化させており、これによって全世界的範囲で各勢力の地位が変わっています。イギリスのEU離脱の結果を見ても分かるように、グローバル化が国家同盟内の不平等と緊張を惹起させており、新たな戦略が追求されています。

こういう側面で、わたしは自主性にたいする概念で不可分の構成部分の一つ

である主権にたいする概念と関連したいくつかの問題点について論じようと思います。

国家政権の主権と平等にたいする研究ではまず、一部の理論的問題から考察しなければなりません。そのために、チュチェ思想にたいする研究と主権概念の研究に及ぼすチュチェ思想の影響とその相互関係を解明することが必要です。

いわば、

- 主権にたいする概念の歴史的発生
- 人民的な主権実施にたいする解釈
- 民族主権と国家主権、主権の所有者確立と関連したことです。

国家の主権は、国家の発生とともに生まれたといえますが、主権にたいする概念はそれよりずっと後に、つまり「*suveranus*」という独裁的統治者の特定の地位が階層制度の頭に決定された中世の末期に入って生まれました。

主権の基礎と合法性について長期間、二つの基本理論が対立してきました。純理的理論と民主主義理論で主権の所有者はそれぞれ異なっていました。

主権にたいする純理的理論はローマ書（ローマ人に送る手紙）に指摘された「*Non e potestas niside Deo*」に基づいています。政治学と実践分野にこの言葉を照らしてみると、この公式は世界の造物主のみが絶対権力をもっているので、王子であっても人間は他の人々の上に君臨する絶対権力をもてないこととなります。純理的概念には二つの形態があります。一つは 16 世紀と 17 世紀にフランスに広範に流布された神の超自然法則の理論です。主権をもつ者を決め、それを認める民族主権と国家主権によって、君主が自己の臣下を指揮する権利をもつということです。

主権にたいする民主主義的理論は、人民主権と民族主権です。より広い意味での全人民に属する人民主権は、一つの決定的要因でした。それは、人民主権が初期社会主義の最初の段階として（人民独裁ともいう）全人民の革命闘争を通じて獲得されたからです。

こうした条件のもとで主権は、それを握った人々の意志によって表現されるようになります。主権を握った人たちの代表者たちは、人民の絶対的な意志を実現する社会的機能を遂行し、またその遵守に責任をもつようになります。

人民主権の概念は、政権が人民から生まれると規定した 1793 年 6 月 23 日に採択されたフランスの憲法で、それにたいする一連の表現を探し見ることができます。憲法の序文を構成している人と市民の権利にたいする宣言第 25 条は、次のように書いています。

「主権は人民のものである：主権は唯一で不可分離であり、表現することも、

譲渡することもできないのである」

憲法第 7 条は「フランス市民は自己の主権をもつ」と指摘しています。しかし、それは一度も尊重されたことがありません。

結論的に見ると、人々の主権は、自己の運命を決定する人々の権利であり、国家の政治路線を樹立し、国家機関を構成し、国家の活動を調節する人々の権利です。現在、人々の主権は一般国際法概念として認められており、これは民族国家を形成する人々の権利を想起させています。

民族主権と国家主権は大概に暴力を通じて、国家の自主性は犠牲を通じて、自主性のための戦争や暴力的な人民革命を通じて獲得されるということを認めなければなりません。

自己の憲法機関を通じて、国家は法規範を制定完成し、必要であれば、納得させるとか、強制的に押し付けるとかによって、それにたいする遵守を保障しなければならぬ義務をもちます。このような統治権は内的（警察と司法制度）に、そして外的（軍隊）に国家支配権と自主性あるいは主権実現の公式的な一つの条件となります。

思想家である金日成主席が創始したチュチェ思想にたいする研究に準じて見るならば、資本主義の主権にたいする一般的な理論と社会主義制度下での革命的哲学理論の本質について、根本的な人権の適用と遵守における大きな差、人類社会組織のそれぞれの形態について明白に知るようになります。

チュチェ思想の要求通りに、自主的で主権をもった朝鮮式社会主義国家を創建した金日成主席の念願は、民族的特性が強いことにより、世代と世代を継いで継承されており、人民に栄光のみをもたらしています。その結果、国家主権と政治主権、軍事的・経済的自主性が堅持され、愛国的な指導者と国の周りに結束した人民が組織化されており、人民はより決断力のある平和愛好的な人民となっています。

わたしは金日成主席と金正日総書記、そして金正恩総書記が大きな功績を積み上げたと思います。こうした業績は、明白に力の不均衡と一部の旧社会主義諸国が残念にも巻き込まれた、全資本主義世界の露骨かつ侵略的な敵意の中で積み上げられたものです。

帝国主義的な修正主義は、朝鮮民主主義人民共和国における社会主義革命の成果によって敗北をまぬかれないでしょう。

抗日革命闘争期にもたらされた組織的・思想的準備にもとづいて、金日成主席は、国のすべての力量を結束するもっとも強力な政治的武器である朝鮮労働党を創建しました。そうして多くの工場と企業所に整然とした秩序が確立、強化さ

れたし、分散的に活動していた革命家が結集され、(アメリカ帝国主義者の国連傘下組織が強要した非人間的な禁止措置のもとでも) 自主的に明白な成果を達成しうる前提がもたらされました。

みなさん

親愛なる友人と同志のみなさん

主権については言及しましたが、自主性については少し触れています。

ここでは金日成主席が1967年12月16日に発表した著作「国家活動のすべての分野で自主、自立、自衛の革命精神をいっそう徹底的に具現しよう」で示したチュチェ哲学の諸原理について、よく知ることが重要であるということについて言及しようと思います。

金日成主席は著作で、国の自主政治を強化し、民族経済の土台をさらに強化して朝鮮民族の統一と自主性、そして繁栄、国防力を保障することによって祖国の安全を自力で頼もしく守ることについて指摘しました。

いずれの国家にとっても、自主性と主権は礎石であり、それがなければその国家は存在しないも同然であり、そうした国家は自己の権能を失くすこととなります。主権を放棄するのは自民族にたいする一つの犯罪となり、それが大陸内の問題であれ、世界的な問題であれ、超大国が国際法を握って牛耳るようになれば、それは自主的な国家にとって一つの危険となります。このようになると、民族国家(種族集団)はなくなって、他の超大国の餌食に成り下がるようになります。

次第に世界化されていく今日の世界で、国家は次第に他の国家に依存するようになり、国連と軍事同盟であるNATOをはじめとした、あらゆる形態の同盟と連合に統合されつつあります。どの主権国家も、このような特権機構から恩恵をこうむることができなかつたし、むしろ自己の主権を放棄しました。

それなら、すべての民族にとって自主性と主権を獲得する上で、基本は何でしょうか。

それは、人民大衆にたいする党と領袖の正しい指導です。

金正日総書記は、次のように述べています。

「人民大衆がいかに革命的に意識化、組織化されるか、いかに自己の革命任務と歴史的使命を遂行するかは、党と領袖の正しい指導を受けるか否かにかかっています」

これは歴史発展の全過程に貢献した社会的・歴史的運動が、領袖たちの尊名と結びついているという事実を見てもよく分かります。大衆にたいする正しい指導は、労働者階級の出現と革命の卓越した領袖の出現によってはじめて実現されました。労働者階級の出現は、社会階級が一つの自主的な歴史の主体になりう

る条件をもたらしました。

労働者階級は、封建社会が崩壊した後、資本主義社会の発生とともに生まれました。

人民の基本構成要素である労働者階級は、革命闘争で人民を指導しました。

これは、人民をして歴史の自主的な主体になりうる社会的・階級的土台をもたらしました。しかしこれは、労働者階級の出現だけで、人民が歴史の自主的な主体になれるということの意味するものではありません。

人民を歴史の自主的な主体とならせる決定的要因は、卓越した領袖の指導です。言い換えれば、人民は立派な領袖を戴くときにのみ歴史の自主的な主体になれるのです。古代スラブのスパルタクス奴隷暴動とシチリア暴動、朝鮮の甲午農民戦争、朝鮮の甲午農民戦争、そしてインドのシパーヒー反乱でも、人民は搾取と抑圧に反対して血戦をくり広げましたが、彼らが得たのは、ただ彼らを縛り付ける鎖が変わっただけでした。古い社会を覆すための闘争で多くの人民が命を捧げましたが、しまいには彼らの成果を搾取階級に奪われてしまいました。

搾取社会で人民は、歴史の主人ではなく、歴史の対象となりました。この時代の人民は、歴史と自己の運命を自主的に、創造的に開拓していく歴史の自主的な主体だといえませんでした。

金日成主席と金正日総書記は、国内および国際運動の領袖となりました。自主性にたいする要求と利害関係、社会発展と革命闘争の合法則性と人民を武装させるべき必要性を反映して、金日成主席と金正日総書記は、科学的な指導思想を創始し発展させることにより、人民に希望を与えました。

人民は領袖によって創始された科学的な指導思想があつて、自己の運命をどのように開拓すべきかを知るようになり、支配と従属の古い世界を覆し、自主的な正義の新世界を創造するための闘争に奮い立つことができました。領袖はまた、労働者階級の党のような革命的な政治組織を組織して、人民を組織的に団結させ、彼らを革命の強力な力量に育て上げました。その結果、人民は遅れと辛い挫折の悲痛な歴史を終わらせ、勝利と栄光の新時代を開くことができました。

金日成主席と金正日総書記、そして金正恩総書記の賢明な指導によって、朝鮮人民は帝国主義者による苦痛と従属の歴史に終止符を打ち、自己の運命を自主的に、創造的に切り開いていく歴史の自主的な主体となりました。

数百、数千年にわたって民族間の戦争と植民地戦争、世界戦争、帝国主義戦争、広島と長崎での大規模の犠牲、朝鮮戦争、ベトナム戦争、中東とアフリカ、アジア、ラテンアメリカ、ヨーロッパにおける紛争、文化戦争、冷戦、そして様々な類型の新しい戦争が起こりました。

自由を愛する西側の「民族国家」は戦争と災難による富を追求して、同一の思想と口実を提唱しました。これらの国は「人権」と男女平等、少数の権利と各種「自由」（自分で選び決める）といった「柔らかい」抽象的な思想を流布させることにより、地球上のいたるところで敢行している人類に反対する自分らの犯罪行為を隠そうとしています。

彼らは利潤のためにこの惑星を強奪し略奪しており、戦争を起こし、他国を侵略し、爆弾を浴びせて全社会と文化を破壊しています。

世界の被抑圧人民と民族は、植民地的、対外的、地域的および封建的抑圧に反対して立ち上がりました。新世界は平等と正義にもとづいた世界、搾取と圧迫、飢餓と疾病、無知のない世界になるべきです。

人々が個人の利益のためではなく、共同の利益のために働く世界が出現しています。言い換えれば、資本主義的搾取ではなく、共同の利益を追求する社会主義原則にもとづいた世界が出現しています。

侵略脅威と核全滅を含むアメリカ帝国主義者からの野蛮な制裁と誘惑、孤立と恒常的な脅威の中でも、チュチェ思想にもとづいている社会主義模範である朝鮮民主主義人民共和国は、金日成主席と金正日総書記、そして金正恩総書記の賢明な指導によって経済的に発展しただけでなく、強力な戦争抑止力をもった国に発展し、世界の主な核大国、特にアメリカと同等の資格で協商しています。

施政演説で金正恩総書記は、朝鮮半島の平和保障の問題が解決できるということを世界の前に証明しました。

アメリカ大統領との直接会談と2018年4月にあった板門店での文在寅大統領との対面、中国とロシア連邦にたいする訪問とウラジーミル・プーチン大統領と習近平主席との会談を通じて、金正恩総書記は全世界の尊敬を受けました。朝鮮半島の平和的統一へ向けた巨歩が踏み出されたのです。

朝鮮人民は、アメリカとその追随勢力によってではなく、自力で祖国統一の最終目的を達成するでしょう。

世界は、強奪と戦争にもとづいた古い世界を改造しうる新たな思想を切に求めています。チュチェ思想にたいする研究は、貴重な教訓とともに未来の世界にたいする解答を与えることができます。

終わりに、わたしは過去だけでなく、今日も教訓を与えているチュチェ思想にもとづいた国際的協力を強化しなければならないということを強調したいのです。